

2013年

2013年6月から新病棟が稼働 東播磨地域の脳卒中を引き受ける



医療法人社団英明会
大西脳神経外科病院
(兵庫県明石市)
理事長
院長 大西 英之

当院は2000年12月に脳神経外科単科病院として急性期82床で開院しました。当時想像していたよりも多くの需要があり、それに応えるために医療の提供を充実させてきました。2003年に2台目のMRI装置を導入、2005年に2台目の超音波診断装置を導入するなど検査機器の充実を図ってきました。そして病床稼働率も常に100%前後で推移するように、兵庫県より40床の増床を許可されましたので、その病床に加えて、現状と将来の患者様の増加

に見合うスペースを確保するために、病院南側駐車場の1階部分を駐車場(栄養科等除く)とする7階建、延べ床面積8733㎡の増築を計画しました。2012年5月に工事着工し、2013年4月末竣工予定、6月1日から実際にオープンします。

人口が増え続ける東播磨地域比例して増加する血管系の病気が

ここ東播磨は人口が多い地域で、明石市、加古川市、高砂市、加古郡播磨町、稲美町までが東播磨臨海医療圏ですが、この人口が72万人になります。また神戸市西区

や垂水区もともと明石の城下町で播磨の国です。ここまで含めると100万人を超えます。阪神・淡路大震災後に越して来られた方もたくさんいらっしゃいます。人口比から疾患も増えていきますし、団塊の世代が亡くなるまで高齢者が増えていきます。当然血管の病気が増えていきます。脳卒中の場合は病後のリハビリも必要になります。あと20年位、脳卒中は増える一方だと思えます。リハビリテーション科では各訓練室を拡張、2階、3階病棟の病室スペースを言語療法室と作業療法室に充ててきました。新病棟が出来ましたら5階を新しいリハ

ビリのフロアにする予定です。また、年間600件を超える手術に対応してきましたが、1手術室では1日3件程度が限度であり、長時間に及ぶ手術があると、他の緊急手術に対応できない状況でした。新病棟には、手術室を3室、さらにハイブリッド手術室といつて、手術中に血管造影も出来る手術室と併せて4室作りまします。そして一番端にMRIとCTを置いて、手術中でも検査ができるようにしています。特に手術用に新しく開発されたMRIが日本で初めて導入されます。術中にカーナビのように脳の中、脳の動脈、静脈、運動神経、脳腫瘍の位置が分かるようにマップを描いていきます。ナビの通りにやっていくと手術が安全に行えるというものです。ギリギリのところまで脳腫瘍を取ることができるようになって

いくと思えます。こういったことは新しく手術室を作る時にしかできませんの、良いチャンスだったと思っています。結果、MRI3台、CTが2台になります。

手術フロアが2階で、3階、4階が病室、6階が管理フロアで、7階が講堂、多目的ホールです。

新棟の完成により、これまで以上に地域の医療ニーズに対応することができるようになると考えています。

環太平洋脳神経外科学会の事務局および会長を務める

2013年1月29日～2月3日の6日間でハワイ島のヒルトン・ワイコロア・ビレッジを会場に、「第9回Mt. BANDAI脳神経シンポジウム」と「第7回環太平洋脳神経外科学会」が合同で開催され

ます。当院はこの「第7回環太平洋脳神経外科」(The 7th Pacific Neurosurgery Congress)の事務局を、私が会長を務めさせていただき、目的の一つとしては、日本人が英語でディスカッションをするような場がなかなかありませんので、できるだけ若い人に来ていただいで発表する機会にしてみたいと思います。日本からも発言してオピニオンリーダーになつて欲しいです。国際的に活躍して欲しいですね。今日本から留学する人たちが減っています。帰ってきてからのポジティブを整えるなど、考えていかなければいけないと思います。